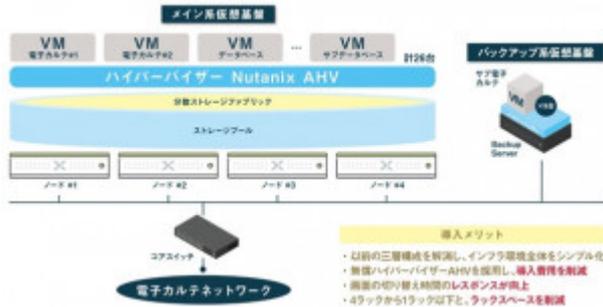


佐賀県の嬉野医療センター、電子カルテ用仮想化基盤にNutanix Enterprise Cloud OSを採用



画面表示のレスポンス性能が向上
インフラ環境のシンプル化で高い信頼性・可用性を確保し、
専用ツールで一元的に運用管理可能に

ITインフラのソリューション・ディストリビューターである株式会社ネットワーク（本社：東京都千代田区、代表取締役社長 森田 晶一）は、独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター（所在地：佐賀県嬉野市）が、電子カルテ用仮想化基盤を刷新するにあたり、ネットワークが提供するハイパーコンバージド・インフラストラクチャー（HCI）製品「Nutanix Enterprise Cloud OS」を導入し、本格稼働開始したことを発表します。

「Nutanix Enterprise Cloud OS」は、大量のサーバー群をコンパクトに集約でき、新規サーバーの追加も柔軟に行えます。また、ネットワークを含めたインフラ環境全体がシンプル化され、専用管理ツール「Nutanix Prism」は直感的でわかりやすく、運用にかかるさまざまな負荷が削減されます。

新仮想化基盤では、電子カルテの画面の切り替えについて、レスポンス性能が向上しました。また、従来システムは、三層構成で構築されていたため障害時の原因切り分けが迅速に行えない点も課題でしたが、新基盤では運用管理や障害対応などの手間が大幅に軽減され、「Nutanix Prism」による一元的な運用管理が可能となりました。さらに、設置スペースは以前の4ラックから1ラック以下に減少し、電気代や空調費用も削減されました。

システムの提案・導入は、株式会社ソフトウェア・サービス（本社：大阪府大阪市、代表取締役会長 宮崎 勝）とユタカ インテグレーション株式会社（本社：大阪府大阪市、代表取締役社長 大谷 明広）が担当しました。両社からは、医療分野などの今後の提案活動の中で、ネットワークの支援に期待が寄せられています。

◆ 導入の背景と選定のポイント

佐賀県南西部医療圏における中核病院の役割を担う嬉野医療センターは、他の国立病院に先駆けて医療情報部門を設置。オーダリングシステムや各種部門システム、電子カルテなどの整備を進めてきました。加えて最近では、検査や診療の呼び出しにSNSを利用するなど、先進ITの積極的な

活用を進めています。

電子カルテシステムは、2015年に仮想化の本格稼働を開始し、安定的な稼働を続けてきました。新病院への移転を機に、インフラをさらに進化させることを目指して、電子カルテ用仮想化基盤の再構築に着手しました。

「Nutanix Enterprise Cloud

OS」採用の決め手となったのは、電子カルテのレスポンスや信頼性を効果的に改善できる上に大量のサーバー群をコンパクトに集約できること、リソース面でも十分な余裕を確保し新規サーバーの追加も柔軟に行えること、ネットワークを含めたインフラ環境全体のシンプル化を図れることなどです。

また、「Nutanix Enterprise Cloud

OS」は、様々なベンダーのハードウェア上で稼働可能であることもポイントとなりました。嬉野医療センターは、佐賀県の中心地から離れた場所に立地しており、駆け付け対応等のサポート面で安心できるベンダーのハードウェアを選択することが可能になりました。

◆ 導入後の評価と効果

高い信頼性・可用性が要求される医療情報システムであることから、安定的なインフラ環境を実現するために、ソフトウェア・サービスとユタカ

インテグレーションの両社が協力して、綿密な事前検証が実施され、実際の運用を想定した性能試験や、アプリケーションの動作検証などが行われました。

旧環境の導入時には、機器調達なども含めてほぼ一年間を要しましたが、今回は、事前の設計作業を含めて約4ヶ月、実質的な構築期間は約2ヶ月で、非常にスピーディに導入できました。

システム構築面での工夫としては、KVMベースにNutanixが機能拡張を加えたライセンスフリーなハイパーバイザー「Nutanix

AHV」（以下、AHV）を採用しており、導入費用が抑えられています。また、一部のサーバーを、既存の仮想マシンイメージをそのままコンバートしてAHV上に移行していますが、その作業もスピーディかつスムーズでした。

新仮想化基盤の導入によりレスポンスは向上し、画面の切り替え時間も短縮され、これにより現場のユーザーも、ストレス無く電子カルテを活用できるようになりました。

また、設置スペースが以前の4ラックから1ラック以下へと大幅に減少したことで、電気代や空調費用も削減できました。さらに、わかりやすく直感的なWebベースの専用管理ツール「Nutanix Prism」により運用にかかるさまざまな負荷が削減されています。

嬉野医療センターは、今後「Nutanix Enterprise Cloud

OS」の活用を拡げ、院内の部門システムなどのインフラ最適化に向けた取り組みを引き続き進めていく考えです。

◆ 独立行政法人 国立病院機構 嬉野医療センターについて

<https://ureshino.hosp.go.jp/>

所在地：佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿甲4279-3

診療科目：24科

病床数：399床

佐賀県南西部医療圏における地域中核病院の役割を担っている。

■ 株式会社ネットワールドについて

<https://www.networld.co.jp/>

株式会社ネットワールドは、ITインフラストラクチャーのソリューション
ディストリビューターとして、クラウド

コンピューティング時代の企業IT基盤を変革する技術製品と関連サービスを提供しています。サーバー、ストレージやネットワーク、そしてアプリケーションやデスクトップの仮想化に早期から取り組み、次世代のITインフラストラクチャーのあるべき姿をリードしています。

Generated by ふれりりプレスリリース

<https://www.prerele.com>